ギフティッド教育通信 2016年7月号
NPO法人Feelosopher's Path Japan発行元
日本ギフティッド協会 www.gifted.org

INSPIRE No.19

イベント

第16回ギフティッドサポートミーティング
日時：9月25日（日）
時間：9:00 - 12:00
場所：スクエア荏原 in 品川
費用：1,000円

第1回ギフティッド講座101
日時：9月25日（日）
時間：13:00 - 16:00
場所：スクエア荏原 in 品川
定員：10名
テーマ：ギフティッド教育101 - 理論編-
費用：5,000円

夏は子供たちが大きく成長する時期です。時期があっても、機会がなくてはなりません。今年の夏はどんな成長の機会がありますか。子供時代は2度と訪れません。ギフティッドカンファレンスで登壇したエリン先生はいつも生徒たちに聞きます。”How do you feel?” 学ぶ事も大切ですが、感じる事も大切です。この夏は沢山感じましょう。

只今、サマーキャンプで日米の子供たちと一緒に最高の夏を作っている。前半の参加者は5歳半から14歳までいる。年齢は関係なく、思いやアイデアは尊重される。感情知性を育む機会がキャンプの中であると、私達は輪を作って、話し合う。4日目にスタッフのトムが「僕はすごく怒っている。それは僕がゲームの説明などをする時に、うるさくしていたり、真剣に聞いてくれていない。」キャンパーの子供たちはトムが真剣に話しているのを見て、いつもおちゃらけて、ダンスをしているトムと違うのを悟った。私は「自分の気持ちを代弁させてはいけない。自分の気持ちは自分が一番よく知っている。」エリン先生が、「誰か気持ちを共有したい人いる？」と聞くと、エリン先生の横から小さな手が大きくあがった。６歳のアリスが「私は小さいけど、小さいと言わないで欲しい」と泣きながら主張していた。もちろん、キャンプが最高に終わったのは言うまでもない。

- 今瀬

この夏誰もが出来ない冒険を

息子（中１）は、中学入学当初から生粋の帰宅部生。意味や意義を見出せないことに手は出さない主義。内申書を気にするとか友達や先生の目とかは、まるで気にならない。よく言えば同調圧力に屈しない、一人っ子の強みである一人行動が出来る男、さらにカッコよく言えば孤高でクールな己を知る男なのだ！

さて、夏休みの定番といえば、日本中のほとんどの中1は、部活三昧で決まりでしょう。でも、息子は帰宅部なので大多数からは外れる。とりあえず中1の夏休みは、ボーイスカウトの日本ジャンボリー山口県大会10日間が、予定されている。長い長い40日間の夏休み、あと30日間は何をする？遠泳教室は殿堂入りでひとまず卒業、ウインドサーフィン教室も毎日ではない。おまけに塾三昧の夏休みなんか、絶対に過ごすわけが無い！あーあーどうしよう！夏休みから、息子が毎日家でのんべんだらりするのを思うとゾッとする。母にとって精神衛生上、非常によろしくない！うーーーん悩むなあ……。

ピカッ！閃いた！一人旅！単身渡米！ホームステイ！アメリカハワイだ！

そういえば小学生の頃、「ハワイに行ったことある？」なんて友達に聞かれていたなあ。クラスのほとんどはハワイ体験済みだとさ。母の時代では、全く考えられない。家族旅行でハワイは行ったことがなく、息子だけがハワイ未体験者だ（汗）。でも、小学生家族旅行でハワイ初体験よりも、中１単身渡米でハワイ初体験の方が、箔はつくし超カッコイイ！クーッきっと喜ぶな〜、この夏誰もが出来ない冒険を　ね！

２０１３年７月母の日記より

gifted newsletter no. 19

日本人が苦手なもの

最近イギリスの歴史について勉強をしています。なぜイギリスでは議会制民主主義が発展したのかを知りたかったからです。いろいろ調べた結果の私の結論は「イギリス人は議論が好きだから」というものです。

確実な根拠はありませんが、議論好きでなければ世界一早く議会を始めることはできないと思うからです。イギリスは日本とは「法」に対する考え方が大きく違います。日本人からすると「法」＝「法律、人によって決められたお互いが生活しやすくなるための規則」というイメージですが、イギリスには「コモン・ロー」というものがあり、「法」＝「議論によって見出された法則（真理）」というイメージのようです。つまり議論好きでなければ、議会もコモン・ローもできないはずなのです。

一方の日本人はどうでしょう。議論が好きな方はいますか。「議論＝争い」というあまり楽しそうでない印象を、日本人の多くが感じているのではないでしょうか。「どっちが言い負かすか」という議論になりやすく、議論の内容は攻撃的になり、相手を見下すような言い方になります。「なぜ俺の言うことが理解できないのか」という感じになります。もし日本人が議論することを好きだったら、江戸時代から議会ができていたのではないでしょうか。

そうなると議論の前提として、「相手を見下さない」ということが必要になります。イギリス人は「相手を見下さないもしくは見下さないようにする」文化があるのかもしれません。

議論は、自分とは違った視点からの考えを知ったり、自分がわかっていないことがわかったり、世の中は単純ではなく複雑なんだということがわたったりと、つまり人を賢くします。

日本人がこの苦手な議論を克服するようにと、私はまず我が家から始めています。子どもを叱る時も子どもに反論の機会を与えるようにしています。それは、子どもの「親から見下されている感」を減らし、親子での議論を促進するのではないかと考えたからです。

すくすくクリニック　新井